

リーフレタス栽培管理情報（No.1）

令和6年6月

JA 福岡京築・京築普及指導センター

★リーフレタス栽培のポイント

- ① pH調整：必ず石灰施用前にpHを調べ、石灰投入量を調整しましょう
- ② 適期定植：安定出荷のため、適期定植に努めましょう
- ③ 適期トンネル被覆：遅れると小玉になるため、早めの準備を

1 ほ場準備

（1）事前準備

- ・畝づくりは時間的余裕を持つため、休耕田を確保しておく。
- ・水稲後作のほ場はすぐに作業ができるように以下の対策を行う。
 - ① 中干し前や間断かん水時に溝を切る
 - ② 水稲収穫後、ほ場の周囲に明渠を掘る



図1 排水の落とし口の例

（2）排水対策

- ・湿害、病害防止のため、排水不良のほ場は高畝にする。
- ・降雨が速やかに圃場外に排出されるように、圃場周囲に額縁明渠を掘り、排水の落とし口につなげる（図1、2）。

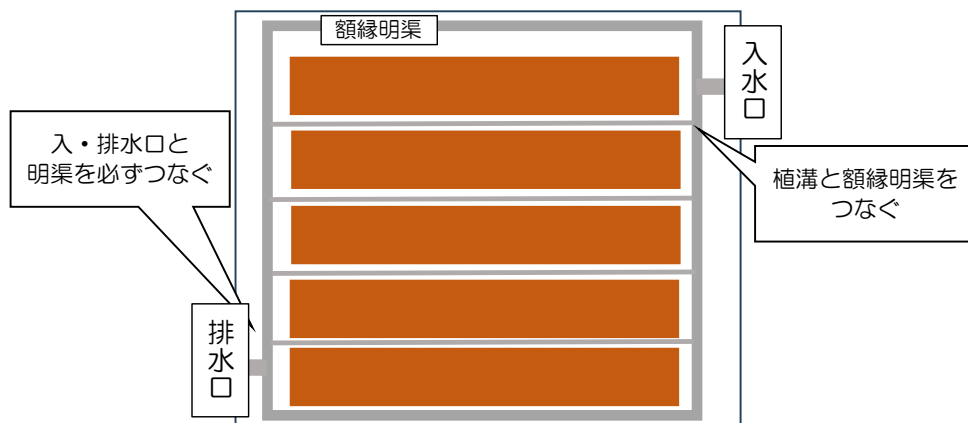


図2 額縁明渠の例

(3) 土づくり・pH調整等

- ・定植 2 週間前までに牛ふん堆肥や石灰資材を施用する。
- ・酸性（pH5.5 以下）に傾いているほ場が多く見られるため、土壌分析を行い、pH は 6.5 程度になるように、石灰を施用する（表）。

表 リーフレタス作付前土壌 pH と石灰投入量の目安（目標 pH 6.5）

現在の 土壌 pH	石灰の種類と投入量の目安		
	苦土石灰 （アルカリ分 55%） ・酸性で溶け出す ・遅効性	消石灰 （アルカリ分 60%） ・pH が上がりにくい ほ場で使用	生石灰 （アルカリ分 80%） ・pH が上がりにくい ほ場で使用
5.5以下	300～	270～	210
5.6～6.0	300～230	270～210	210～150
6.1～6.5	230～120	210～110	150～ 80
6.6～7.0	120～ 0	110～ 0	80～ 0
7.1以上	0	0	0

※深さ 15cm で耕耘する場合を想定

(4) 耕うん・畝づくり

- ・降雨直後の耕耘や畝立ては、土塊が大きくなり、練った状態の畝になる。このような状態では活着不良となり、定植後の生育が遅れ、小玉傾向となるので注意する。
- ・出来るだけ土壌水分が適当な状態（土を握りしめたときに土塊が少し崩れる程度の水分）で畝立て作業を行い、土塊の細かい畝（碎土率 80%程度を目標）を立てるようにする。

☆生分解性マルチの使用上の注意

生分解性マルチは気温、水分、紫外線、土質、微生物、肥料の種類によって劣化・分解が進む可能性があるため、次の点に注意して使用する。

- ①気温が高く、降水量が多い時期（8月～9月）の展張や排水が悪いほ場での使用は分解が早い可能性があるため、ポリマルチを検討する。
- ②フィルム表面（畝上や畝肩）への過剰な覆土は避ける。
- ③裂けやすいため、風の無い日に緩めの展張を行う。
- ④水稻後作のほ場は作物残渣を早く分解させるため、石灰窒素を施用する。

2 施肥事例

(1) 土壌改良剤 (10a あたり)

資材名	前作型共通
牛フン堆肥	3 t
ミネGスーパー または炭酸苦土石灰	140kg

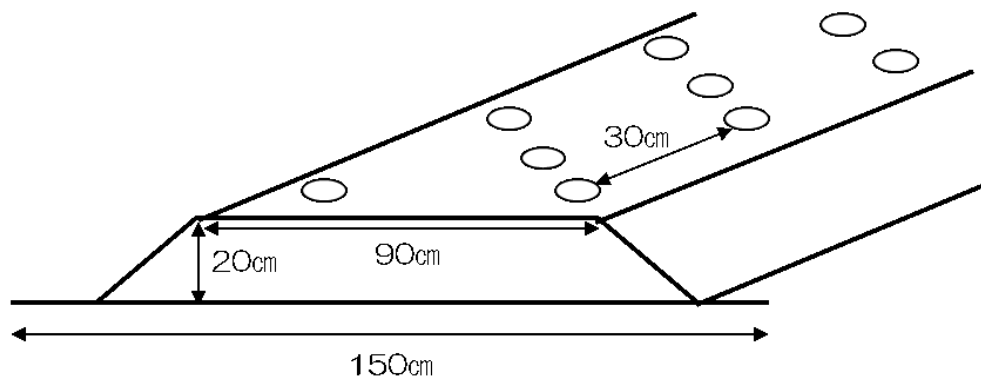
(2) 基肥 (10a あたり)

作型	定植時期	資材名	施肥量
年内 どり	～10月中旬	ベスト 444 (14-14-14)	140kg (7袋)
		ケイフン (3.5-2.8-3.3)	37.5kg (2.5袋)
厳寒期 どり	10月下旬～ 2月	ベスト 444 (14-14-14)	140kg (7袋)
		ケイフン (3.5-2.8-3.3)	90～120kg (6～8袋)

(3) 栽植本数 (10a あたり)

畝幅	株間・条間	条数	定植本数	128穴 トレイ	200穴 トレイ
150cm	30cm	3条千鳥植え	6600株	58枚	36～37枚

(4) 畝立て図



3 定植

(1) 適期定植

- セル苗の定植適期は3日間程度のため、植え遅れのないように十分注意する。特に10月は定植が1日遅れると収穫が7～10日程度の収穫遅延となる。
- 老化苗は活着が遅れるため、小玉になりやすいので注意する。

(2) 定植方法

- 浅植えや深植え、傾けての定植は活着不良や変形球の原因となる(図3)。
- 定植時の鎮圧が不足すると、冬期の乾燥で生育不良となるので、セル苗と土の間に隙間が開かないように鎮圧を行う。

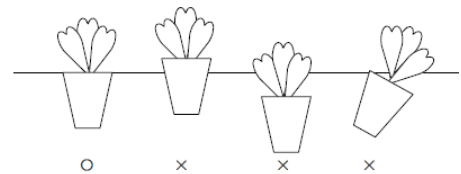


図3 植え付け深さや角度

(3) かん水

- 活着促進のため、定植後速やかに植穴にかん水する。定植直前の液肥かん注(OKF-1 500倍)も活着促進に繋がる。

4 定植後の管理

(1) かん水と排水

- 乾燥が激しい場合は畝間かん水を行う。気温が高い時間帯(25℃以上)の畝間かん水は根傷みを引き起こしやすいので、注意する。
- 滞水すると根が傷みやすいので、まとまった降雨や台風の接近が予想される場合、排水溝の整備を行い、排水を良くする。

(2) 液肥の施用

- 生育が遅い場合や外葉が小さい場合は、液肥を施用し生育を促進させる。

• かん水代わりに施用する場合	}	有機液肥046	300～400倍
		OKF-1	800～1000倍
• 葉面散布の場合	}	ポリコープ1号	500～600倍
		OKF-1	500～1000倍

5 トンネル被覆・管理

(1) トンネル準備およびトンネル被覆

- ・被覆が遅れると霜害による病気が発生する可能性があるため、早めに準備する。
- ・被覆は年末以降収穫分で、平均気温が8～10℃となる12月上旬頃（平年）に行う。

(2) 生育期に応じたトンネル管理

- ・トンネル内の最高気温が25℃以上にならないように管理する。
- ・サニーレタスの場合はトンネルが汚れていると発色が悪くなる場合があるので、汚れていないトンネルを使用する（特に1～2月出荷は新品が望ましい）。
- ・発色促進のため、収穫前10～14日は換気に努める。

6 病虫害防除

(1) 病害

- ・病害多発後の防除は困難。発生前や発生初期の予防防除を実施する。

【防除時期の例：①定植直前 ②定植2週間後 ③トンネル被覆直前 ④降雨後】

- ・ほ場周辺に雑草が多いと、風通しが悪くなり病虫害の温床となるため、除草を行う。
- ・収穫が遅れると、病害が突発しやすいので、適期収穫を心がける。

【主な病虫害と発生時期】

病虫害名	発生時期	原因	対策
べと病	11～4月	低温（8～15℃）、多湿	適期防除 （予防） トンネル換気
斑点細菌病	10～11月	低温多雨	
菌核病	9～12月、 3～5月	多湿	
腐敗病	11～4月	低温多湿	

(2) 害虫

- ・害虫多発後の防除は困難、予防防除を実施する。

【防除時期例：①定植直前 ②秋期 ③トンネル被覆直前 ④春期 ⑤害虫発生初期】

- ・ほ場周辺に雑草が多いと、風通しが悪くなり病虫害の温床となるため、除草を行う。
- ・防蛾灯（黄色灯）を使用する場合は、定植前日の日没前から開始する。

【主な害虫と発生時期】

病虫害名	発生時期	原因	対策
ネキリムシ類	9～10月 4月	—	ダイアジノン粒剤5
アブラムシ類	9～11月 3～5月	高温・乾燥	適期防除
ハスモンヨトウ	9～11月	高温	適期防除

(3) 生理障害

- ・老化苗や根傷み、急激な肥効、収穫遅れ等によりレタスでは生理障害があらわれるため、適正な栽培管理を心がける。

【主な生理障害一覧】

生理障害	症状	原因	対策
チップバーン	葉の縁枯れ	酸性土壌、カルシウム不足 乾燥による根傷み等	石灰資材の施用 適度なかん水
ピンクリブ	中肋部の褐変	老化（取り遅れ）、多肥等	適期収穫 適切な肥培管理
凍霜害	低温に遭遇すると 表皮がはがれる	低温前の トンネルの閉めこみ	
早期結球	—	定植遅れ、活着不良 後半の過剰生育等	適切な肥培管理 適期定植
発色不良	—	高温、過密植、多肥	トンネル換気 適切な肥培管理

8 収穫

(1) 収穫期の判定

- ・草丈 20～25cm で収穫する
- ・10～11月、5～6月は抽苔が早いので、収穫が遅れないように注意する。

(2) 収穫時における品質保持

- ・鉄製の包丁は切り口が酸化して変色しやすいので、ステンレス製の包丁を使って収穫する。
- ・切り口は食塩水（水 1 L に食塩 100 g）を浸した布で拭くと、切り口が褐変しにくくなる。

※補足 育苗管理

(1) 育苗準備

- 育苗本数は、予定している定植本数より、予備苗を含めて1～2割多く準備する。
- 育苗場所は、雨よけができ、日当たりと風通しの良い涼しい場所を選ぶ。
また、病虫害予防のため、周辺の除草や不要な資材を片付ける。
- 育苗箱は、根鉢形成のために地面との間に隙間を設け、排水が均一になるように地面と水平に設置する。
- 発芽・生育適温は15～20℃で、25℃以上では発芽率が低下する。高温期は寒冷紗等で遮光し、温度の上昇を防ぐ。
- 育苗期間の目安は、8月播種は20～23日前後、9月播種は23～27日、10月以降の播種は29～42日（作型表参照）。

(2) 育苗管理

- 播種後のかん水管理は、セルトレイの底から水が出るまで十分にかん水を行う。発芽揃いまでは、乾燥させないように注意する。
- 播種時に害虫予防としてミネクトデュオ粒剤を散布する。
- かん水の時間帯は、徒長を防ぐため午前中を中心に行う。特に、育苗箱の周縁部は乾燥しやすいので重点的にかん水し、かん水量はセルトレイの重さ等から判断する。
- 育苗期間が長く、葉色が薄くなったら、適宜液肥を施用する。
- 定植日が近くなったら、外気に馴らすためハウスの換気を行い、午後のかん水を少しずつ控え苗の硬化を図る（順化）。
- 定植苗の大きさは、本葉3～4枚を目安とし、播種時にミネクトデュオ粒剤を散布しない、もしくは定植が遅れた場合等は、害虫予防として定植前日にヨーバルフロアブルを育苗箱にかん注する。